稲城野草散策の会

野草スケッチ　ミクリ（ミクリ科）

1996/06/27　　稲城市大丸　　絵と文　Ｔａ

「東京都の保護上重要な野生生物種（普及版）」という冊子がある。
発行元は、東京都環境保全局自然保護部。
この冊子には、東京都において絶滅が危惧される動植物が記載されており、島嶼を除いた本土で６４２種類の植物があげられている。

会報第３２号　2007年8月26日発行　発行責任者　尼子　房夫

全国的には、環境庁が発表した「レッドデータブック（ＲＤＢ）」があるが、これはその東京都版だ。

ミクリも東京都の冊子に掲載されている貴重種である。
かつてはどこにでもあったものらしい。
こうした「保護上重要」あるいは「貴重種」となった植物、いわゆるＲＤＢ種とは、要するに数が少ないということである。
なぜ、数が少ないのか、冊子をパラパラと眺めていると、経緯がなんとなく見えてくる。
私の独断と偏見とで、経緯を推理してみると、次のようなグループに分けられる。

グループ１：もともと数が少なかったもの
グループ２：商品価値や園芸化要求などにより乱獲されたもの
グループ３：開発などにより生育環境が破壊されたもの
他にもあるかもしれないが、思いついたのはこんなところだ。

グループ１は、分布域の境界にあるもの（関西には多いが関東では稀といったもの）と、石灰岩地帯とか深山幽谷など特殊な環境下以外には見られないものとに分けられる。
このグループに盗掘が加わると、本当に絶滅してしまう。

グループ２は、野生ランが顕著な例であるが、マニアや「売れる」と見た業者が根こそぎもっていってしまったものである。
観賞用だけでなく、薬用効果を持ったものもある。
マニア以外にも、綺麗な花だからちょっと庭へ植えようという不心得者が後を絶たない。

グループ３は、特に水辺の植物に多い。
田んぼ脇の用水路などに生える、ある程度大型の植物は、軒並みＲＤＢリストに名前を連ねている。
郊外へ郊外へと住宅地が進出し、田んぼが次々につぶされた高度成長期以降、急速に数を減らしたグループと言ってよいであろう。
わずかに残った田んぼも、家庭排水や農薬にまみれて、デリケートな植物が生き残れる環境ではなくなったのだ。

グループ３については、もう一つ言っておきたいことがある。
それは、小川や溜池や沼などにあった、浅い泥の水辺が姿を消したことである。
田んぼがなくても、そうした水辺はかつて、どこにでもあったと思う。
が、いまや、川は３面コンクリート張りになり、池や沼は埋め立てられてしまい、泥の水湿地は見当たらない。

ミクリはグループ３に入る。
東京都の中でも、湧き水があつて、かなりの水量を持った小川ができているような場所でなら、ミクリが見られることもある。
それ以外では、残念ながらお目にかかったことがない・・・と思っていたら、多摩川にひょっこり現れた。

水流がカーブしてよどみができ、泥が溜まった岸辺に咲いていた。
セオリー通り？である。
一番岸に近いところに咲いていたミクリをスケッチしたいが、どうにも足場が悪い。
近くにあった流木やプラスチックなどでようやく足場を確保した。

スケッチが終わって気が付けば、靴もズボンも泥だらけである。
泥んこになって帰ってしかられた、幼い日を思い出した。
なお、その後の増水で岸辺がえぐられ、ミクリもろとも無くなってしまったことを付記しておく。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

〔観察記録〕７月２０日　霧ヶ峰高原

麗しの霧が峰はニッコウキスゲとテガタチドリで美しく覆われていました。
山頂は余りの寒さに昼食を取ることも出来ず、遅昼となりましたが、臨機応変にスケジュール調整をして下さり、植物を充分楽しむ事が出来ました。（ぽんこ）

◆観察記録　「　」は０７．６．２３（金）下見の際に記録したもの

アカネ科	キバナカワラマツバ
アカバナ科	ヤナギラン
アヤメ科	アヤメ、ノハナショウブ
イネ科	「コウボウ、ヌカボシソウ、ハルガヤ」
イグサ科	ヤマスズメノヒエ

イラクサ科　　カラハナソウ
ウコギ科　　ウド
オトギリソウ科：シナノオトギリ
カエデ科　　オオイタヤメイゲツ
カタバミ科　　「コミヤマカタバミ」
カバノキ科　　ヤマハンノキ、ダケカンバ、シラカバ
カヤツリグサ科　「タガネソウ、アブラガヤ」
キキョウ科　　ツリガネニンジン
キク科　　ウスユキソウ、ヤマハハコ、ノコギリソウ、オトコヨモギ、オオヨモギ、ノアザミ、ヨツバヒヨドリ、ニガナ、ハナニガナ、シロバナニガナ、マルバダケブキ、コウゾリナ、ハンゴンソウ、コウリンカ、キオン、アキノキリンソウ、ハバヤマボクチ、ヒメジオン、「オタカラコウ、メタカラコウ、サワギク、タムラソウ、オクモミジハグマ」
キンポウゲ科　　トリカブト、キバナノヤマオダマキ、ウマノアシガタ（キンポウゲ）、カラマツソウ、キンバイソウ、「サンリンソウ」
ゴマノハグサ科　クガイソウ
サクラソウ科　　「クリンソウ」
サトイモ科　　マムシグサ、「ザゼンソウ」
シソ科　　ウツボグサ、イブキジャコウソウ、ケブカツルカコソウ
スイカズラ科　　オオカメノキ、ニシキウツギ
スミレ科　　シロスミレ、「サクラスミレ」
セリ科　　シシウド、オオカサモチ、アマニュウ、イブキボウフウ
ナデシコ科　　オオヤマフスマ
タデ科　　イブキトラノオ、イタドリ
ツツジ科　　レンゲツツジ、ヤマツツジ
トウダイグサ科　タカトウダイ
ニシキギ科　　ユモトマユミ
バラ科　　シモツケソウ、アカバナシモツケ、シモツケ、ヤマブキショウマ、ダイコンソウ、ミツバツチグリ、ミヤマニガイチゴ、ズミ、シロバナノヘビイチゴ、ワレモコウ、ナナカマド、「エゾノコリンゴ、ミヤマザクラ」
フウロソウ科　　グンナイフウロ、ハクサンフウロ、タチフウロ、アサマフウロ
ブドウ科　　エビヅル
ブナ科　　ミズナラ
ベンケイソウ科　ベンケイソウ
マタタビ科　　サルナシ

マツ科　　カラマツ、モミ、ツガ
マツムシソウ科　マツムシソウ
マメ科　　ヤマハギ、ナンテンハギ、イタチササゲ、イタチハギ、イヌエンジュ
メギ科　　ヒロハヘビノボラズ
モクセイ科　　イボタノキ
ラン科　　テガタチドリ、ミズチドリ、ヤマトキソウ、ヒロハトンボソウ、「クモキリソウ」
ヤナギ科　　バッコヤナギ、イヌコリヤナギ、オノエヤナギ
ヤマノイモ科　　キクバドコロ
ユキノシタ科　　ハナチダケサシ、ノリウツギ、バイカウツギ、ヤグルマソウ
ユリ科　　ゼンテイカ（ニッコウキスゲ）、スズラン、ショウジョウバカマ、オオバギボウシ、コオニユリ、アマドコロ、シュロソウ、コバイケイソウ、ノギラン、ネバリノギラン、「エンレイソウ、チゴユリ、ササバギンラン」
シダ類　　ヘビノネゴザ、ヤマドリゼンマイ、オニゼンマイ、ワラビ、コウヤワラビ、「イヌガンソク、ミヤマシケシダ」
その他　　セイヨウオトギリ(コゴメバオトギリ)帰化、ホソバウンラン（談合坂ＳＡ）帰化（ぽんこ）

〔観察記録〕７月２９日　駒沢学園周辺

駒沢学園周辺観察会ご参加の皆様、お疲れさまでした。猛烈な暑さと激しい俄雨が印象的な観察会となりました。それにしても、この日の天気予報は、ピタリと当たりましたね。お見事でした。（ナンテ・・）この日歩いたコースの三沢川は、数年前、浚渫を行って、樹木も草も根こそぎ取り払われてしまったのですが、わずかな間に見事に復活しました。植物の遷移の力をまさに実感しました。特にヤナギの類の成長の早さには、驚きです。

さて、この場所では、「ガマ」、「コガマ」、「ヒメガマ」の三種類を見ることが出来ますが、ちょっと変わったヒメガマを見つけました。その場で、盛んに「珍しさ」を力説したのですが、あまり反応がなく、ちょっと淋しい思いをしました。

（＾＾；）雌花穂が二つある「ヒメガマ」です。（めりべ）

◆観察記録（番号順）

⑴ケヤキ、⑵ヤドリギ、⑶ネズミモチ、⑷カラタチ、⑸ヒメジョオン、⑹メマツヨイグサ、⑺ユウガギク、⑻ヘクソカズラ、⑼（アカバナ）ユウゲショウ、⑽オミナエシ、⑾アメリカオニアザミ、⑿オモダカ、⒀イボクサ、

⑭ジャヤナギ、⑮カワヤナギ、⑯タチヤナギ、⑰シャクチリソバ、⑱（ケ）アリタソウ、⑲ツユクサ、⑳オニグルミ、㉑ヤブガラシ、㉒カラスウリ、㉓ヨウシュヤマゴボウ、㉔ヒメガマ、㉕ワルナスビ、㉖（アツバ）ヤブマオ、㉗オオイヌタデ、㉘ネコハギ、㉙ヒメスイバ、㉚チゴザサ、㉛セリ、㉜ミソハギ、㉝イヌザクラ、㉞ツリフネソウ、㉟ウワミズザクラ、㊱マユミ、㊲ケイヌビエ、㊳サンカクイ、㊴ガマ、㊵ニガクサ、㊶ヤブミョウガ、㊷コウヤワラビ、㊸イヌワラビ、㊹ノハカタカラクサ、㊺オカウコギ、㊻シロザ、㊼キツネノカミソリ、㊽アカザ、㊾オケラ、㊿アキノタムラソウ、(51)ヒヨドリバナ、(52)ヤクシソウ、(53)タイム、(54)ウラジロチチコグサ、(55)ユズリハ、(56)マルバウツギ、(57)サンショウ、(58)キブシ、(59)ゴンズイ、(60)アオハダ、(61)ツクバネウツギ、(62)トコロ、(63)ノササゲ、(64)ヒメドコロ、(65)イガクリタケ、(66)サジガンクビソウ、(67)タマアジサイ、(68)ヤマトリカブト、(69)コバノガマズミ、(70)ハナイカダ、(71)オカタツナミソウ、(72)アカショウマ、(73)？、(74)ナガバジャノヒゲ、(75)コブシ、(76)ツリバナ、(77)サワフタギ、(78)イタヤカエデ、(79)コマユミ、(80)サワフタギ、(81)ハリギリ、(82)アワブキ、(83)ガマズミ、(84)サワフタギ、(85)タマゴダケ、(86)ヤマトリダケ？、(87)コバノカモメヅル、(88)カシワバハグマ、(89)ミズバショウ、(90)オオバギボウシ、(91)ヤブレガサ、(92)テングダケ、(93)ナルコユリ、(94)ギンラン、(95)オオバノトンボソウ、(96)シナノキ、(97)ツルウメモドキ、(98)イヌザンショウ

その他観察されたものとして、イヌコリヤナギ、エゴノキ、ヤマユリ、タマガヤツリ、ヤマホトトギスなどがあります。（9）アカバナユウゲショウは単にユウゲショウとしている場合もありますが、ユウゲショウはオシロイバナの別名として認められていますので、アカバナをつけるようです。（18）アリタソウは古くにはあったようですが、アリタソウとケアリタソウは同種として扱われ、現在はケアリタソウが一般的のようです。ちなみに、シソ科、アリタソウ属のケイガイの別名としてアリタソウは存在します。（26）アツバヤブマオは私が調べた範囲では見当たりません。ヤブマオとして記載しました。（46）シロザはアカザの母種ですが、現在はアカザと同種として扱われているようです。（55）ユズリハはトウダイグサ科と書かれていましたが、現在はユズリハ科です。（73）は不明です。どなたか記録している方はこれに記入してください。（満井喬）

満井さん、記録、ありがとうございました。駒沢学園を出て清水谷戸へ入りかけたところで一天にわかに掻き曇り、雷鳴が轟いたと思うまもなく大粒の雨がぽつ

り、と落ちてきました。急遽解散にして、雨具を出している間にバケツをひっくり返したような土砂降り。そこへ見事なタイミングでバスが来て、ほとんど濡れることもなく稲城駅まで戻ることができました。まあ、ついていなかったというか、ついていたというか、解散と土砂降りとバスのタイミングが絶妙でした。(86)ヤマトリダケ？は図鑑も持っていなかったのであいまいに表現してしまいましたが、ヤマドリタケモドキだったような気がします。(65)イガクリタケはニガクリタケのうち間違いor 記録ミスだと思います。（26）アツバヤブマオはカタバヤブマオかもしれません。「神奈川県植物誌」には出ていました。もう少し調べてみます。（Ｔａ）

〔行事記録〕８月１４日　インドアオフ

インドアオフに参加されたみなさま、お疲れ様でした。

え～と、数えてないのでよくわかりませんが、(^_^;)参加者は２３名だったと思います。

発表の目次です。

・屋久島の紹介と植物（広沢）
・屋久島の地学（斉藤）
・沖縄の爬虫類両生類（松本）
・木曽駒ヶ岳の高山植物（竹越）
・ネパール旅行記録（小村）

他に、急遽参加できなくなった、はやしさんからメールでいただいた写真も発表しました。
（屋久島・黒味岳の記録、他）
発表いただいた方に感謝！です。

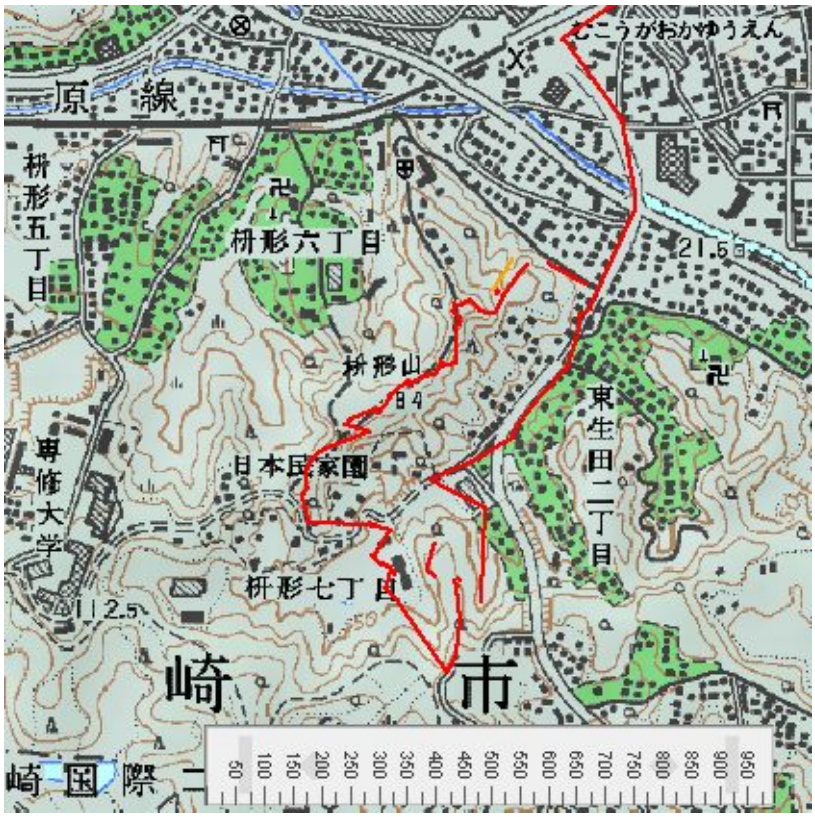
暑い夏は涼しい室内でのこういうオフもいいですね。（Ｔａ）

昨年の１１月１８日に続いて２回目の「インドアオフ」です。

稲城市中央文化センター（市役所隣）の会議室を借りて、開催しました。液晶プロジェクターを入手しましたので、これを活用しての催しです。空調の利いた部屋の中で、じっくりと写真を見ながらの勉強会も大変有効だと思います。。

１０月６日、７日に予定されている「合宿オフ」でも、液晶プロジェクターを使った勉強会が予定されています。ふるってご参加下さい。(FAM)

〔行事予定〕2007/8/26（日）　生田緑地

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、小田急線向ヶ丘遊園駅南口　改札口付近　※会旗目標 向ヶ丘遊園駅には北口改札口もありますのでご注意下さい
交　通	小田急線をご利用下さい 向ヶ丘遊園駅には快速急行は停まりません、急行、準急、各停をご利用下さい
行く先 (解散場所)	向ヶ丘遊園駅から生田緑地の中を回って向ヶ丘遊園駅に戻ります 向ヶ丘遊園駅　ｐｍ４時頃解散予定
見所 その他	センニンソウ、ヤマハギ、タデ科、キク科など
地　図	
コース	向ヶ丘遊園駅→稲尾橋→枡形山入り口→枡形山→緑地内散策→日本民家園→青少年科学館→正門→稲尾橋→向ヶ丘遊園駅（解散） コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円

〔行事予定〕2007/9/8（日）　稲城ふれあいの森

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、京王相模原線若葉台駅　※会旗目標 若葉台駅の改札口は一個所だけです
交　通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で５駅目 小田急多摩線の場合は、永山駅、または多摩センター駅で、多摩モノレールの場合は、多摩センター駅で京王線に乗換え 若葉台駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 （解散場所）	稲城ふれあいの森（一回りして若葉台駅へ戻ります） 若葉台駅にてｐｍ４時頃解散予定
見所 その他	秋の草花・・・ツリガネニンジン、ヤブミョウガ、オモダカ、コナギなど。運が良ければコバノカモメヅル、ナンバンギセル
地　図	
コース	若葉台駅→ふれあいの森→（南周遊路）→大塚牧場脇→（休耕田）→正吉苑脇→谷戸→日大グランド脇→若葉台駅（解散：４時頃） 多少のアップダウンがあります コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円

〔行事予定〕2007/9/30（日）　三戸（みと）海岸

項　目	説　明
集　合	京浜急行線・三崎口駅 改札口付近　am10時　※会旗目標 改札口は一個所だけです
交　通	京浜急行線品川駅から快速特急三崎口行き8：45発をご利用下さい。三崎口駅9：54着
行く先 （解散場所）	三戸海岸一周・京浜急行線三崎口駅　pm4時頃解散予定
見所 その他	ソナレマツムシソウ、ヒロハクサフジ、ハマゴウ、ネコノシタなどの海浜植物
地　図	
コース	三崎口駅→黒崎→黒崎の鼻→三戸（みと）海岸→バス通り→三崎口駅（解散） コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日300円